県立高校における障害のある生徒と障害のない生徒が共に学ぶ仕組みと、一人一人の教育的ニーズに応じた学びを保障するための調査研究について

県立学校教育課

本県における共生社会の形成に向け、インクルーシブ教育システムの構築を図るため、沖縄県立高等学校における障害のある生徒と障害のない生徒が共に学ぶ仕組みと、一人一人の教育的ニーズに応じた学びを保障するための調査研究を行い、報告書を作成した。

１　調査研究の目的

障害のある生徒と障害のない生徒がともに学ぶ仕組みと、一人一人の教育的ニーズに応じた学びを保障するための調査研究を行うため、知的障害の程度が中度・重度である生徒を対象として、県立高等学校に県立特別支援学校高等部分教室（以下「ゆい教室」という。）を設置し、以下の事項について課題等を明らかにしながら、より効果的な「ゆい教室」の在り方について調査研究することを目的とする。

（１）共生化の拡大（インクルーシブ教育システムの構築）
（２）理解啓発の推進
（３）障害のある生徒と障害のない生徒の学びを保障
（４）特別支援学校のセンター的機能の充実
（５）多様な学びの場の拡充

２　調査研究の実施期間

令和３年４月１日から令和６年３月31日

３　調査研究の対象校

高等学校：県立真和志高等学校　特別支援学校：県立島尻特別支援学校高等部

４　概　要

別紙概要版参照

５　今後の取組

この調査研究は、障害のある生徒が積極的に社会に参加・貢献するための環境整備の一つとなっている。

また、ゆい教室という「多様な学びの場」を設けることは、障害のある生徒と障害のない生徒が共に学ぶという教育の観点からみて、大きな意義があると考える。

さらに、設置校内におけるゆい教室の生徒と高等学校の生徒との日常的な交流は、両校の生徒の人間的な成長に繋がるものと考えている。今後も県立島尻特別支援学校と県立真和志高等学校との連携の下、ゆい教室を継続し、引き続き課題等について研究していく。

〈 別紙 〉

県立学校教育課

県立高校における障害のある生徒と障害のない生徒が共に学ぶ仕組みと、一人一人の教育的ニーズに応じた学びを保障するための調査研究報告書（概要）

１　調査研究の実施期間

令和３年４月１日から令和６年３月31日

２　調査研究の対象校

高等学校：県立真和志高等学校　　特別支援学校：県立島尻特別支援学校高等部

３　具体的な調査研究内容

(1)　学びの場の多様性について、関係者の継続的意識調査

(2)　管理者の異なる学校間の条件整備の在り方

(3)　ゆい教室における教育課程の編成と適正な施設設備及び施設の有効な活用方法

(4)　特別支援学校（本校・ゆい教室）と高等学校との連携を通した交流及び共同学習の推進に係る研究

(5)　ゆい教室におけるセンター的機能（高等学校への支援等）の充実

(6)　実践の課題整理や分析、対応検討

(7)　調査研究モデル校において研究が必要と捉えている事項の研究

４　調査研究の趣旨

共生社会の形成に向け、インクルーシブ教育システムの構築を図るため、沖縄県立高等学校における障害のある生徒と障害のない生徒が共に学ぶ仕組みと、一人一人の教育的ニーズに応じた学びを保障するための調査研究を行うため、沖縄県立特別支援学校高等部分教室（ゆい教室という。）を設置し、調査研究を実施する。

５　調査研究の目的

障害のある生徒と障害のない生徒がともに学ぶ仕組みと、一人一人の教育的ニーズに応じた学びを保障するための調査研究を行うため、知的障害の程度が中度・重度である生徒を対象に県立高等学校に「ゆい教室」を設置する。以下の事項について課題等を明らかにし、より効果的な「ゆい教室」の在り方について調査研究することを目的としている。

(1)　**共生化の拡大**（インクルーシブ教育システムの構築）

ゆい教室に在籍する生徒と高等学校に在籍する生徒が共に学ぶ場所が共有されることで、同年齢の生徒とのつながりをより深めることができるようになる。

考察⇒　障害のある生徒もない生徒も、お互いの学びを保障しながら学習を続けることにより、互いに個性を尊重し、互いの学びを深め合い、互いを認めあう気持ちなどが確実に醸成されてきたと考える。今後の課題として、①分教室の生徒数、②「交流及び共同学習」の効果的な時間設定や学習方法、内容など、発達段階に応じた交流及び共同学習のプログラムの作成、③特別支援学校と高等学校における教育課程の相違や互いの学びを保証するための推進の在り方などについて整理する必要があり、引き続きその課題解決に向けた継続検証を図る必要があると考える。

⑵　理解啓発の推進

共に学ぶ場所が共有されることで、生徒の意識が深まることにより、高等学校での理解や支援が受けやすく、障害に対する理解が進むようになる。

考察⇒　共同学習の様々な取組が展開され、共に学ぶ場所が共有され、職員や生徒の意識の深まりや障害に対する理解が進むようになったと考える。また、アンケートなどの考察から学校関係者や保護者等への理解啓発だけでなく、活動を共にした両校の生徒同士が理解を深めることができたことは大きな成果と考える。今後も継続して、更なる理解啓発のための取組を図る必要があると考える。

⑶　障害のある生徒と障害のない生徒の学びを保障

特別支援学校学習指導要領に基づき、高等学校の教育課程と関連させながら、柔軟な教育課程の編成を行うことにより、お互いの学びを保障する指導体制の在り方を研究する。

考察⇒　教育課程の編成については、設置校である真和志高等学校及びゆい教室における関係職員の協力体制により、お互いの主張を上手く取り入れながら両校の教育課程を弾力的に運営し、新たな教育課程を再編成できたことが、双方の学びの保障につながったと考える。

真和志高等学校のカリキュラムに合わせ、ゆい教室の柔軟な時間割編成ができたことで、共に学ぶ時間の充実も図られ、ゆい教室生徒の積極的な学習への取組等から社会性の高まりがみられた。一方、真和志高等学校の生徒においても障害理解や自己肯定感の高まりがみられ、共生社会への涵養、人権尊重の意識向上に繋がるなど双方にとって、有意な学びの場となっている。

⑷　特別支援学校のセンター的機能の充実

ゆい教室を設置することにより、設置高等学校及びその周辺地域にとって、特別支援教育に関する相談・支援が身近なものとなり、地域の特別支援学校のセンター的役割を果たすことができる。

考察⇒　ゆい教室においては、特別支援学校の職員が配置されている事から、専門性のある職員による特別支援学校のセンター的機能を活用しやすい環境にあると考えられる。また、真和志高等学校の職員にとっても専門的知見からの助言を受けやすく、より効果的な生徒支援に繋がることも期待できる。ゆい教室が設置されたことにより、真和志高等学校においては、特別支援教育に関する相談・支援が身近なものとなり、特別支援学校のセンター的機能を果たすことに繋がっている。

⑸　多様な学びの場の拡充

支援の必要な生徒への連続性のある学びの場の提供となる。現在、高等学校在籍の支援の必要な生徒は、通常学級での指導や特別支援教育支援員の支援を受けている。特別支援学校の分教室を設置することで、同環境内で多様な学びの場として指導方法や支援方法等を共有できる。

考察⇒　真和志高等学校内に特別支援学校の機能を持ったゆい教室を設置することで、個に応じた学びの保障と、障害のある生徒とない生徒が同じ空間、同じ時間を共有する「交流及び共同学習」の充実を図ってきた。今後の多様な学びの場については、施設を含む教育環境の体制整備、設置校と教育委員会、学校間の連携が強く求められた。今後も、効果的な教育課程の編成作業や交流及び共同学習の充実に向けた体制作りなど継続的な研究が必要である。

6　おわりに

障害のある生徒が積極的に社会に参加・貢献するための環境整備の一つとなっています。また、ゆい教室という「多様な学びの場」を設けることは、障害のある生徒と障害のない生徒が共に学ぶという教育の観点からみて、大きな意義があると考えます。さらに、設置校内におけるゆい教室の生徒と真和志高等学校の生徒との日常的な交流は、両校の生徒の人間的な成長に繋がるものと考えております。県教育委員会では、今後とも島尻特別支援学校と真和志高等学校との連携の下、ゆい教室を継続し、引き続き課題等について研究していきます。